

2014年度

(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

NPO法人 復興支援ネットワーク・フェニックス
活動計画書



<http://phoenix-hanabi.jp>

I 設立趣旨・目的

この法人は、新潟県中越大震災などの自然災害により甚大な被害に遭遇した地域及び住民のために、復興を支援する様々な活動を行い、ネットワークを創り、全国へ向けて伝えることによって、新潟県全体の経済を活気付け、活性化し、観光産業を軸にして、新しいブランドの創設を図り、地域経済の発展に率先して貢献する事を目的とする。

訪れる人にとって魅力的な街であること

それは、子どもたちが誇りをもって暮せる街

そして、創り出せるのは唯一我々大人たちの思いから・・・

II 活動概要

1 「復興10年フェニックスプロジェクト」事業

(1) 復興10年フェニックスプロジェクト推進会議の設立

<設立趣旨>

今年、平成26年に長岡市は、7・13水害、中越大震災から10年を迎えます。

このメモリアルイヤーにおいて、犠牲になられた方への追悼と支援への感謝の想いを市民が一つにし、不死鳥のごとく復興を果たした長岡の姿が、東日本大震災の希望の光となるよう、経験と教訓、感謝の気持ちを全国へ、次世代に引き継ぐことが、これまで復興支援に取り組んできた我々の使命であると考えます。

そのために、各団体が復興への想いを共有し、復興祈念事業を一体となって進めるとともに、広く全国に向け、また、10年20年先の長岡に向けて、その想いを発信し、子供たちが誇りを持てるような未来を創っていくことが必要です。

市民の想いを一つに、各団体が協働する場として、今日ここに、復興10周年祈念事業「フェニックスプロジェクト」推進会議を設立します。

「フェニックスプロジェクト」の設立趣旨、目的、コンセプトにベクトルを定め、個々の事業が繋がりが合い、一体となって邁進することで、より多くの人々に発信し、多くの出会いが生まれ、より大きな成功に繋げることができるものと確信しています。

一人一人の力は小さいものです。しかし、それがまとまれば大きな力になる。災害を経験し、復興を果たした我々だからこそ、それを伝えることができます。

皆さんの手で、一緒にこの「フェニックスプロジェクト」を、そして、そのさきの未来を創っていきましょう。

<目的>

復興10年のメモリアルイヤーにおいて長岡市と市民団体、復興関連団体が協働し、「全市の一体感の醸成」と「復興した姿の発信」、そして「10年20年先の長岡に向け子供たちが誇りを持てる未来の創造」を図る

<キャッチフレーズ>

「復興10年、たくましく前へ、長岡 ～そのさきの未来へ～」

<コンセプト>

亡くなられた方への「追悼」 全国からの支援に対する「感謝」

経験と教訓の「伝承」 復興した姿を全国へ「発信」

<ロゴマーク>



<実施内容>

- ① 当NPOは長岡市地域振興戦略部と共に本推進会議の事務局を務める。
- ② 構成団体の一員として長岡市と復興関連団体、市民団体と一体となって復興祈願事業を推進する。
- ③ 情報の共有と発信 各団体の紹介、事業内容、イベント、情報発信や情報交換を行う。
- ④ 専用ツイッター、フェイスブックの立上げ、当NPOのHPをリニューアルしフェニックスプロジェクトページを立ち上げ、運営する。
- ⑤ 市政だより（毎号1ページ）や長岡市HPに情報を掲載する。公共施設へのチラシ設置などを行う。
- ⑥ ロゴマーク、キャッチフレーズの共用による一体感の醸成を図る。
- ⑦ 広報PRグッズ等の製作、配布を行う。
- ⑧ 推進会議（年3回）を開催する。
- ⑨ 長岡市との共同記者会見による情報発信を行う。

<復興祈願事業>

- ① 復興祈願花火「フェニックス10」の打ち上げ（復興と感謝のシンボルとして全国へ発信する）
- ② 中越大震災復興の集い
- ③ フェニックスコンサート（アオーレ長岡にて復興コンサート開催）
- ④ 7.13水害復興イベント「キズナの森フェスタ」にてミニフェニックス打ち上げ
- ⑤ 東日本大震災被災地支援
- ⑥ マスコミとのタイアップ

(2) 復興10年プロジェクト委託事業

- ① 平原綾香プロジェクトプロデュース及び花火大会当日の演出・対応
- ② 広報PR活動 メディア対応・調整
- ③ グッズの製作

2) 「花火打上支援事業」(大イベントを全国へ発信して地域を活性化する)

2005年8月以来、9年間、2004年10月の新潟県中越大地震からの一日も早い復興を祈願し、またご支援いただいた多くの方々への感謝のシンボルとして、「復興祈願花火フェニックス」と題し、世界一として誇れるような壮大な規模の花火を打上げ実現することが出来ました。

この花火を復興のシンボルとして、新潟県中越大地震などの自然災害により甚大な被害に遭遇した地域及び市民のために、復興を支援する様々な活動を行い、ネットワークを創り、全国へ向けて「支援に対する感謝」「復興への思い」伝えることによって、新潟県全体の経済を活気付け、活性化し、観光産業を軸にした、新しいブランドの創設を図り、地域経済の発展に率先して貢献する事を目的とします。

そして、本年も昨年同様、被災された地元の方々、企業をはじめとする全国の皆さんよりご支援いただきながら「長岡まつり大花火大会会場」にて「フェニックス10」と称して10回目の節目となる打上げを想定し、新たな企画、取組みにもチャレンジし花火打上げを実現させたいと思います。また、3・11東日本大震災において、未曾有の被害にあわれた方々を勇気付け、支援したいと考え、東日本大震災復興支援事業を行うこととし、被災地の花火大会や復興イベントでの打ち上げを実現させ、「復興祈願花火フェニックス」のネットワークを構築し、日本・世界における復興「ブランド」に育てていきたいと思ひます。「復興祈願花火フェニックス」を通じて、人と人、地域と地域が、結びつきを育み、今、この苦難の時こそ、絆を信じて、全国に支援の輪を広げて参りたいと思ひます。

(1) 長岡まつり協議会 フェニックス部会 事務局業務

- ① 復興祈願花火フェニックス打ち上げ事業支援
- ② フェニックス花火協賛金募集活動及びフェニックス花火の企画支援
- ③ オフィシャルガイドブック製作支援
- ④ フェニックス観覧席設営・運営支援
- ⑤ 「フェニックス10」記念誌製作支援
- ⑥ 長岡まつり安全対策業務支援

(2) 街頭募金、フェニックス観覧席設営などによるボランティア支援・育成活動

- ① (一社)長岡青年会議所の皆さんをはじめ、NPO法人国際ボランティア学生協会の学生ボランティアの皆さんによって行っている7月の毎週末に行われるフェニックス花火の街頭募金活動や8/2・3長岡まつり大花火大会フェニックス観覧席での設営活動。
- ② 活動を通じて社会・地域に貢献できる人材を育成します。

(3) 長岡まつり大花火大会及びフェニックス花火の広報、PR活動

- ① 長岡まつり大花火大会の宣伝及び総合案内
- ② フェニックスビジョンの活用
- ③ 長岡まつり花火記録アーカイブ事業支援

(4) オフィシャルガイドブック・DVD・記念誌などの協議会商品販売及びフェニックス協賛金の募集・管理

(5) 東日本大震災被災地の花火大会や復興イベントでの打ち上げ協力

(6) 中越大地震の際、ご支援いただいた方々と東日本大震災被災者の方々を花火大会招待

3) フェニックス・ネットワーク事業 (交流により地域を活性化する)

長岡市をはじめ、新潟県の新しい魅力を創造・発信し、交流人口の拡大を図るため、歴史、文化、自然、産業などの様々な地域資源を生かした、多様な地域間の交流を推進し、更に地域交流の活性化を図るため、地域の多様な魅力を県内外に発信するため、各地域の方々とのネットワークの一層の充実を図ります。

また今後、都市間競争が本格化する中、明確な個性や強みを打ち出せない地域は埋没することも予想されます。長岡市内の合併地域をはじめ、県内の各地域の魅力や多様な地域資源を一体(ネットワーク)となって広く発信(シティプロモーション)し、各地域の都市ブランドを一層高められるよう事業を推進します。地域社会が抱える課題は、近年ますます、複雑・多様化し、従来の行政サービスだけでは十分に対応できないケースが増加しています。地域の課題を解決するには、市民自らが組織したNPOや地域活動団体などの活動が重要となってきています。

市民活動と行政が対等な立場でそれぞれの役割を明確にしなが、協力・連携する「市民協働」による「まちづくり」を推進してまいります

(1) 復興・地域活性化を祈願する各地での花火打上事業

本年度打上予定：見附、石巻、寺泊、新潟

各地 主管団体：フェニックス見附、フェニックス寺泊

フェニックス新潟(みんなの花火打上実行委員会)

7.13 水害復興イベント「キズナの森フェスタ」での打上(NPOキズナの森)

(2) 東日本大震災復興支援事業

長岡市内、新潟県内および被災地で避難生活を余儀なくされている方々を8月2日、3日の長岡まつり大花火大会にお招きし、長岡の誇る「長岡花火」をご覧くださいます。中越大震災を経験し、2度の戦争からの復興を成し遂げた我々、長岡人の復興への思い、全国の皆様からご支援いただいた感謝の気持ち、長岡花火に込められた戦災復興と慰霊、鎮魂の思いを被災された方々に感じとっていただき、復興への希望、勇気が届けたいと思います。

(3) 地域間交流とネットワーク化の推進事業

① 長岡市内の合併地域をはじめ、県内の各地域で活動するNPOや市民活動団体と連携・交流を図り、観光、芸能文化、スポーツ、産業などそれぞれのまちづくりを支援し、相互のネットワークを強化し、人々の交流や地域の情報の発信力を高めます。

② NPO法人キズナの森との交流・連携

7.13 水害イベント「キズナの森フェスタ」への協力・支援

(4) 市民協働による活力あるまちづくり事業

① 協働を担う人材の育成

② 市民力・地域力の活用と市民活動の促進

③ アオーレ長岡を活用した事業

④ 市民交流ネットワーク・アオーレと市民協働推進会議への参加

4) プロジェクト事業 (人材・食により地域を活性化する)

復興支援の為に様々な団体(個人)と連携して、相乗効果を得られる事業を行います。復興ブランド「フェニックス」を確立する為に、花火以外でも地域に密着した活動を行います。また、3・11東日本大震災において、未曾有の被害に遭われた方々を勇気付け、支援したいと考え、これまで行ってきた復興支援事業や地域活性化事業を通じて、人と人、地域と地域が、結びつきを育み、いま、この苦難の時こそ、絆を信じて、全国に支援の輪を広げて参りたいと思います。

(1) 地域の未来を担う子供たちのための青少年育成事業

①出張花火ミュージアム

(一社)長岡青年会議所と長岡市より協力いただき、復興のシンボルとなった「震災復興祈願花火フェニックス」の打ち上げ経緯と思いと長岡の地域資源である「長岡の大花火」の魅力を小学校に出向き啓蒙活動を行う。

②フェニックスカップジュニアバレーボール大会

バレーボールを通じて児童の親睦と交流を図り、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の養成に努める。

(2) 長岡発「食」プロジェクト

長岡のご当地グルメメニューの掘り起こし、マップを製作し地域内外への情報発信を図る。2009年より展開してきた「洋風かつ丼」PRと長岡まつり大花火大会花火観覧席での地元食材を使用した「食」による「おもてなし事業」の実施、新規特産、名産品の開拓、開発PR活動を実施。また、「食」による地域活性化事業を通して、東日本大震災復興支援事業を行う。

5) 中心市街地活性化事業 (社会資本総合交付金事業：まちなか賑わい創出事業)

(1) まちなか情報発信事業

大手通の情報交流館「まちこい」(NPO事務局)によるリアル店舗での地域の情報の収集と発信を行うと共にIT、ネットを活用した情報プラットフォーム「まちこい」による地域の情報の収集と発信を行う。

(2) 大型LEDビジョン「フェニックスビジョン」の運営。長岡まつりやホコ天、中心市街地でのイベントでの活用やアオーレ長岡の大型ビジョンとの連携・活用についても検討を図る。

(3) 「ながおかミニ花火ミュージアム」の運営を行い、長岡の重要な地域資源である「長岡の大花火」を地域の子供たちや大人をはじめ、多くの観光客にその魅力を伝え広報、宣伝を行う。

(4) 中心市街地活性化するための事業・インフラ整備の提案

6) エンタープライズ事業 (地域独自の商品開発、販売事業により経済を活性化する)

復興支援及びフェニックスプロジェクト関連商品を企画・開発・販売し、収益をフェニックス花火打上費用として長岡まつり協議会へ協賛すると共に自主事業に充当いたします。

(1) 「まちこい」での販売

(2) フェニックス画像、映像使用商品の開発、販売(カレンダー・DVD発売中)

(3) フェニックス自販機事業(協力:キリンビバレッジ株)

(4) 花火協賛シール製作・販売

7) 委託運営・ソリューションサービス事業

市民、行政、企業が求めるサービス・事業が多様化する中、様々な業務上の問題点の解決や要求の実現を行うための事業の受託やより効果的なシステム開発・構築を行います。多様化するニーズによる「新しい公共」のサービスを提供し、市民協働の礎となる活動を行います。

(1) 長岡花火普及啓発事業

① ながおかミニ花火ミュージアムの運営。

三尺玉、尺玉等の花火玉、花火筒原寸レプリカの展示や、50インチハイビジョンモニターでの長岡まつり大花火大会の上映など長岡花火の歴史や情報を発信します。

② 長岡まつり協議会ホームページ運営委託事業をはじめ、情報交流館「まちこい」にて長岡花火や長岡まつりの情報発信や観光客からの問い合わせに対応する。

(2) 越後長岡NAV I 運営委託事業

① 「越後長岡NAV I」

長岡市の観光名所、宿泊、グルメ等の観光スポット情報や各種イベント情報などを多数掲載し、このNAV Iアプリをご利用いただくことにより長岡での観光、生活をより一層楽しむためのホットで役立つ情報を簡単に検索できます。また、各スポットの紹介やアクセス情報のなどの掲載の他、現在地からのルート案内、周辺スポット検索、ARガイド、思い出アルバム作りなどができる、「便利で楽しい」おもてなしアプリです。

② 各観光施設・公共施設の連携・連動を図る。